

鷹取山自然観察会会報

2016. 9.11 No.13

鷹取山の野鳥調査について

—2015年12月～2016年5月の調査報告—

鷹取山自然観察会では、鷹取山の自然を把握するため生き物調査を行っています。野鳥調査は冬から春の繁殖期までの比較的観察しやすい時期に行っています。2014年の結果は会報8号で報告しました。ここでは2015年12月～2016年5月まで行った調査の結果を報告します。

日本野鳥の会神奈川支部の資料によれば横須賀市東部で記録された鳥は約150種としています。また、横須賀市教育情報センターのWebでは三浦半島で見られる野鳥として112種を掲載していて内50種ほどは水辺の鳥であるため、60種位が山や野原で見られることに

なります。

また、野鳥は他の動物に比べて移動距離が大きく、夏鳥、冬鳥など季節によって移動を繰り返しているので地域の環境を把握するためには継続的な調査が必要だと思います。

また、野鳥は山林、草原、田畑、水辺などですみ分けを行っており、鷹取山でよく見られるシジュウカラ、ヤマガラなどは山林を好み、ホオジロ、ツグミなどは草原を好むようです。モニタリングサイト1000里地調査では生息場所ごとに野鳥の指標種52種（表1）を取り上げています。

表1：モニタリングサイト1000里地調査の指標種52種と、その渡り・ハビタットタイプの区分。

渡りタイプ	ハビタットタイプ	種 名
留鳥(22種)	森林 (7)	アオゲラ、ウグイス、カケス、キセキレイ、コゲラ、エナガ、ヤマガラ
	草地、畑地 (4)	ムクドリ、ハシボソガラス、ヒバリ、カワラヒワ
	水田、湿原 (6)	コサギ、セッカ、ダイサギ、バン、アオサギ、ケリ
	複合 (5)	オオタカ、モズ、ノスリ、ホオジロ、キジ
漂鳥(4種)	森林 (3)	ウソ、ルリビタキ、アオジ
	草地、畑地 (1)	ニュウナイスズメ
国外移動 (夏鳥、15種)	森林 (7)	ヤブサメ、ホトトギス、サンショウクイ、オオルリ、センダイムシクイ、 キビタキ、コサメビタキ
	草地、畑地 (2)	コムクドリ、ノビタキ
	水田、湿原 (3)	アマサギ、チュウサギ、オオヨシキリ
	複合 (3)	カッコウ、ツバメ、サシバ
国外移動 (冬鳥、11種)	森林 (2)	ミヤマホオジロ、マヒワ
	草地、畑地 (3)	ジョウビタキ、シメ、ツグミ
	水田、湿原 (2)	タゲリ、タシギ
	複合 (4)	カシラダカ、アトリ、シロハラ、ベニマシコ

注：キビタキなどの網掛け文字の種は鷹取山で確認した種である。

表2 野鳥調査結果

	科 名	種名	2014年	2015年
1	キジ目キジ科	コジュケイ	8 (4/6)	8 (4/6)
2	キツツキ目キツツキ科	アオゲラ	0	1 (1/6)
3		アカゲラ?	0	1 (1/6)
4		コゲラ	9 (5/6)	15 (6/6)
5	スズメ目アトリ科	アカウソ	1 (1/6)	0
6		ウソ	10 (2/6)	2 (1/6)
7	スズメ目ウグイス科	ウグイス	13 (5/6)	29 (5/6)
8	スズメ目エナガ科	エナガ	3 (1/6)	14 (3/6)
9	スズメ目カラス科	ハシブトガラス	15 (5/6)	10 (5/6)
10		ハシボソガラス	3 (1/6)	8 (2/6)
11	スズメ目シジュウカラ科	シジュウカラ	14 (6/6)	18 (6/6)
12		ヤマガラ	1 (1/6)	4 (1/6)
13	スズメ目スズメ科	スズメ	41 (6/6)	34 (6/6)
14	スズメ目セキレイ科	ハクセキレイ	0	4 (2/6)
15	スズメ目ツバメ科	ツバメ	0	1 (1/6)
16	スズメ目ヒヨドリ科	ヒヨドリ	36 (6/6)	66 (6/6)
17	スズメ目ホオジロ科	アオジ	10 (4/6)	2 (2/6)
18		ホオジロ	2 (2/6)	1 (1/6)
19	スズメ目ムクドリ科	ムクドリ	8 (3/6)	0
20	スズメ目メジロ科	メジロ	20 (5/6)	42 (5/6)
21	スズメ目アトリ科	カワラヒワ	2 (1/6)	0
22	スズメ目チメドリ科	ガビチョウ	1 (1/6)	7 (3/6)
23	スズメ目ツグミ科	アカハラ	0	2 (2/6)
24		イソヒヨドリ	0	1 (1/6)
25		大型ツグミ類	0	2 (2/6)
26		シロハラ	3 (3/6)	0
27		ツグミ	3 (3/6)	0
28	スズメ目ヒタキ科	キビタキ	0	1 (1/6)
29		ジョウビタキ	1 (1/6)	1 (1/6)
30	スズメ目モズ科	モズ	1 (1/6)	3 (2/6)
31	スズメ目レンジャク科	ヒレンジャク	13 (1/6)	0
32	タカ目タカ科	オオタカ?	0	1 (1/6)
33		トビ	5 (3/6)	8 (4/6)
34		ノスリ?	0	1 (1/6)
35	ハト目ハト科	キジバト	7 (3/6)	4 (3/6)
36		ドバト	3 (2/6)	2 (2/6)
		羽数	233	289

注：カッコ内数値（1/6）は、種の確認回数/観察回数

2014年：2014年12月-2015年5月、2015年：2015年12月-2016年5月

1. 調査方法

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」に準じて行いました。調査ルートは植生の違う4区間に分け調査しました。調査頻度は月一度第一金曜日に行い、調査ルートを歩きながら、目撃、鳴き声（地鳴き、さえずり）で種を判別し記録しました。

2. 調査結果

今回は、月一度6回の野鳥調査を行いました。調査日によっては気象条件などにより出

現する数に違いがありました。2014年と2015年の調査結果を表2に示しています。2015年は全期間を通して29種が記録できました。

調査期間を通して数が多い鳥はヒヨドリ、メジロ、スズメ、ウグイス、シジュウカラ、コゲラの順であり、これらは留鳥でした。

2014年との比較では、アオゲラ、ハクセキレイ、ツバメ、アカハラ、キビタキ、オオタカ、ノスリ、イソヒヨドリなどが2015年に初めて観察できました。また、ウソ、アオジなどは2014年と比較して観察数が少なかった。一方、2014年に観察したカワラヒワ、シロハラ、ツグミ、ヒレンジャクなどは2015年には観察できなかった。

2015年の調査ではオオタカ、ノスリを記載しました。しかし、上空高く飛翔していたため同定が難しかった。神武寺、池子にはタカ類の営巣も確認されていてこちらに飛んできたものと思われます。

3. その他

今回、12月から観察しやすい冬から5月まで調査を行いました。冬の間は多くの鳥はさえずりよりも地鳴きが多く、判別がしづらかった。たとえば、ウグイスのさえずりは「ホーホケキョ」と誰でもが知ってい

ますが、冬の地鳴きは「チャッ、チャッ」と鳴いています。シジュウカラのさえずりは「ツピ、ツピ、ツピ」ですが、地鳴きは「ジュク、ジュク」などと鳴きます。見逃した野鳥もあったため観察された29種よりも多く生息しているものと思われます。

我々自然観察会では鷹取山周辺について今後も継続的に調査を行っていきます。

アマチュアの調査であり、種の同定に間違いがあるかもしれませんが、継続することで精度が上がっていくと思っています。また、当会の野鳥調査では、繁殖に影響しないようマナーを守り調査を行っています。2016年は12月から野鳥調査を再開する予定です。

＜2015年調査に参加した人＞ 本多久男、中村紀雄、高橋和子、島村健二、板垣加代子、竹之下香苗、林美紗江、三科清高、石垣正博、新田滋（順不同、敬称略）

巣箱の掛け替え作業（予定）

鷹取山の樹林内ではシジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、エナガ、ジョウビタキ、ウソ、ウグイスなどがごく普通に観察されます。シジュウカラ、ヤマガラは巣箱をよく利用してくれる野鳥でもあり、当会では2013年から野鳥の保護を目的に巣箱掛けを行ってきました。

2013年に8個、平成2014年に9個を子ども達とイベントを開催して鷹取山公園にかけてきました。現在17個の巣箱が掛かっています。



今年は昨年度と同様に今まで設置した巣箱の掃除と利用状況を調べます。巣箱を掛ける時期は11月～3月といわれ、出来るだけ早い時期に掛けてしまうのが良いということで昨年と同様に次の日程で行います。ぜひご参加ください。

予定日：11月11日（金曜日）9時30分
雨天の場合は16日（水曜日）に延期します
集合場所：鷹取山公園あずまや集合
12時解散
用意するもの：軍手、作業できる服装
脚立などはこちらで用意します。

樹木板の設置について（報告）

樹木板の設置は2013年2月に開始して今年で3回目です。今年は6月22日に樹木板を設置しました。今回はシュロ縄の交換と痛んだ樹木板の交換を中心に行いました。



また、樹木名の訂正なども行いました。

オオバイボタ→ オカイボタ

アオダモ→ マルバアオダモ

キブシ→ エノシマキブシなどです。

会員7名で杉板の樹木名等が記入したプレートシュロ縄で木にとめていきした。崖地や坂道などもあり苦労しましたが、2時間余り作業を行いました。

樹木板は木製でペンキにより種名、特徴、科名を記載してあります。樹木の名前を覚えることが目的ではないですが、自然と触れ合うきっかけとなれば幸いです。



樹木板を設置してから、多くの方に樹木の名前や花の咲く時期が分かって良かったなどご意見を頂いています。樹木板の設置に参加された方は本当にご苦労様でした。

鷹取山の秋はキク科が主役

小池順子

鷹取山の秋はキク科の花で彩られます。キク科は被子植物の中でもっとも繁栄し、発達を遂げ、変化に富み分化しているといわれています。世界中に2万種以上、日本には350種ほど自生し、外来種は100種ほどあります。キク科の植物は約5千万年前に南米で生まれたらしいと、アルゼンチンやスウェーデンの研究グループが化石分析からそう結論し、アメリカの科学誌で報告しています〈2010.09.26.朝日新聞〉。

鷹取山もキク科の植物は多く、ほぼ一年中キク科のいずれかが咲いているのを見られます。しかし秋が最も多く、夏の頃からヒヨドリバナ、コヤブタバコ、サジガクビソウ、ヒメガクビソウなど地味な花が咲いています。

ノギクは、ユウガギクが最初に咲き始め、ノコンギク、カントウヨメナ、シラヤマギク、シロヨメナ、リュウノウギクと咲いていきます。

ユウガギクは、葉の質が薄く葉の縁は中裂することが多く、葉の基部は楔形で葉柄はありません。コースの行程で多く見られます。

カントウヨメナはそれほど多くなく、ユウガギクに比べ葉の切れ込みは小さく葉を触ってもざらつきません。また冠毛はほとんどありません。

ノコンギクは総苞片の先が紫色を帯び、葉柄があり葉の両面はざらつきます。冠毛は長く5mmほどあります。冠毛が発達しないユウガギクやカントウヨメナはヨメナ属ですが、ノコンギクはシオン属です。ノコンギクは乾いたところに咲くことが多く、磨崖仏に行く途中にあります。

シラヤマギクは高さ70cmほどになり、舌状花の数が少なく、茎や葉に短毛が生えざらつきます。下方の葉は大きく葉柄も長いので見分けるのは簡単です。

シロヨメナは行程では最も多く見られます。全体に毛は少なく、茎はやや紫色を帯びています。葉は先が尖り、長楕円状披針形で3脈が目立ちます。花は白色で小型です。

リュウノウギクも多くはありませんが、点在しています。葉を揉むと良い香りがします。葉は3裂し、裂片がさらに不規則に裂け、両面に毛が生え特に裏面の毛が多いのが特徴です。舌状花の数は多いです。

ノギク以外のキク科の植物もシュウブソウ、ノブキ、ブタクサ、ベニバナボロギク、ヨモギ、ヤブタバコ、セイタカアワダチソウ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、アイノコセンダングサ、センボンヤリ、トネアザミ、キクアザミ、コウヤボウキ、カシワバハグマ、オケラ、タムラソウ、アキノノゲシ、ヤクシソウ、キッコウハグマなど、晩秋まで楽しめます。

キク科は大きくタンポポ亜科とキク亜科に分かれますが、キク亜科は頭状花だけのもの、頭状花と舌状花を持つものとの2種類があります。タンポポ亜科は舌状花だけで花弁の先が5歯に切れていて茎を切ると白い乳液が出ます。アキノノゲシやヤクシソウがこれに属します。

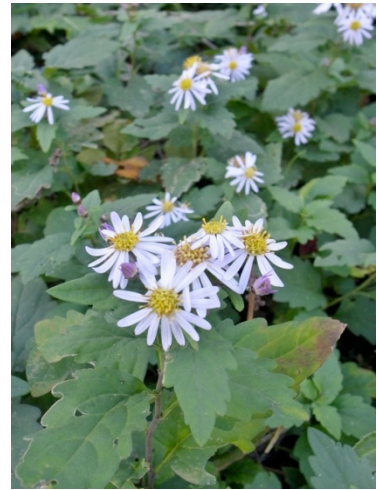
最近ではさらに12の亜科に分類されるようになっています。



ユウガギク



カントウヨメナ



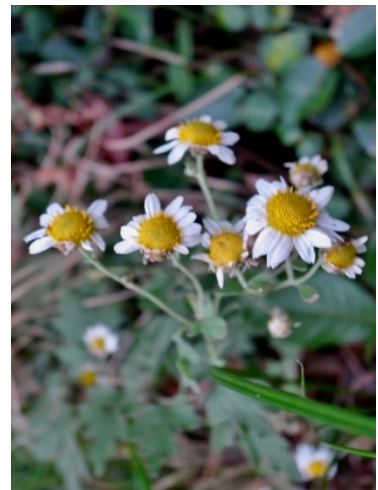
ノコンギク



シラヤマギク



シロヨメナ



リュウノウギク

ではなぜキク科は進化してきたのでしょうか。キク科の花序は小花の集まりで、ノコンギクの場合、舌状花だけでも10数枚、頭状花に至っては根気よく数えなければなりません。コウヤボウキの頭状花は10数個あります。一つの花茎に多くの花が咲きます。

また冠毛によって風散布されるもの、棘や粘液で動物付着散布するもの、種子を取り巻く皮がスポンジ状で水散布するものなど、散布様式も多様化しています。世界中に広がるキク科の生き残り戦略の一つでしょう。

種を新しい土地に定着させるだけでなく、外来種との交雑種もでき、耐性のキク科の植物がじわじわと進化し続けているかもしれま

せん。ゲノム解析によって分類も見直されました。形態的特徴の研究も進み、進化の過程も明白になってくるでしょう。

里山のノギクは昭和世代には郷愁のようなものがありますが、素朴なイメージとは裏腹に遺伝的形質とたくさんのスキルを持っているイケてる植物かもしれません。

野草の三大悪名

市川 實

「皇帝」「星凜」「愛翔」これを読めますか。「しいざあ」「あかり」「らぶは」と読み、実際に命名された赤ちゃんの名前です。

このような名前をキラキラネームといいま
す。これに眉をひそめる方もおられるでし
ょうが、この傾向は現在に限ったことでは
ありません。例えば、15代将軍徳川慶喜を、「
よしのぶ」となかなか読めないように、江戸
時代の武将の名前は読めないものが多いで
す。もちろん武将の名前は、キラキラネー
ムではありませんが。

人の名前は、親の恣意で付けられますが、
我々が日々使っている植物の名前、いわゆる
和名は、牧野富太郎氏が、ごみ箱で見つ
けたのでハキダメギクと名付けたように、多
くの和名は即物的に簡単に名付けられたも
のが多いです。しかし中には粋なセンスを
感じさせるものもあります。例えば、ヌス
ビトハギ（実の形が盗人のつま先に似て
いる）、ウバユリ（乳母は育てた子が大人
になるころ歯がなくなることから、花が
咲くころ葉がなくなる）。マツヨイグサ
（待宵草）は、ツキミソウ（月見草）と
呼ばれたりヨイマチグサ（宵待草）など
と呼ばれて、ロマンを感じさせます。また、
高山植物のオトギリソウ（一子相伝の薬
草を、金に目がくらんで教えた弟を切り
殺す）にはドラマを感じさせます。

中には植物に意思があったら怒り出す
ような悪名もあります。

ヘクソカヅラ たしかに臭いです。だから
といって、屁と糞ではあまりにもかわい
そうです。赤いかわいい花をうっかりつま
むと「メルカプタン」という物質が蒸発し
て臭いを発するそうです。おまけに花言葉
が「人嫌い」、ここまでくると「いじめ」
ですね。ヤイトバナという別名もあるので
変えてやりたいです。

ママコノシリヌグイ 誰がこんな名前を
付けたのでしょうか。これはもう「いじめ」
の域を超えて児童虐待です。タデ科なので、
蔓ではありませんが、蔓性の茎を2メートル
ほど伸ばすその茎に、尖った棘が無数に付
いているので、うっかりつかむとひっかき
傷ができるほど痛いです。その茎で、継
子の尻を拭く、なんと恐ろしい継母でしょ
う。韓国では「嫁の尻拭い」というそう
ですが、変なことに気が

合います。トゲソバという別名があります。

オオイヌノフグリ 帰化植物のオオイヌ
ノフグリはどこでも見ることができますが、
在来種のイヌノフグリは見たことがありま
せん。「ふぐり」とは陰嚢（金玉）のことで、
花を見てそれをいうと、どこが陰嚢なのか
と不思議がりますが、花ではなく実が陰嚢
に似ているのです。花がルリ色から、ル
リソウの別名があります。



上から、ヘクソカヅラ、ママコノシリヌグイ、オオイヌノフグリ

人の名前は原則変えることができません。子供の時がかわいいからといって、あまりに洒落た名前を付けると歳を取ったときに心配になります。植物の名前は変えることができます。例えば、「ヒカンザクラ（緋寒桜）」

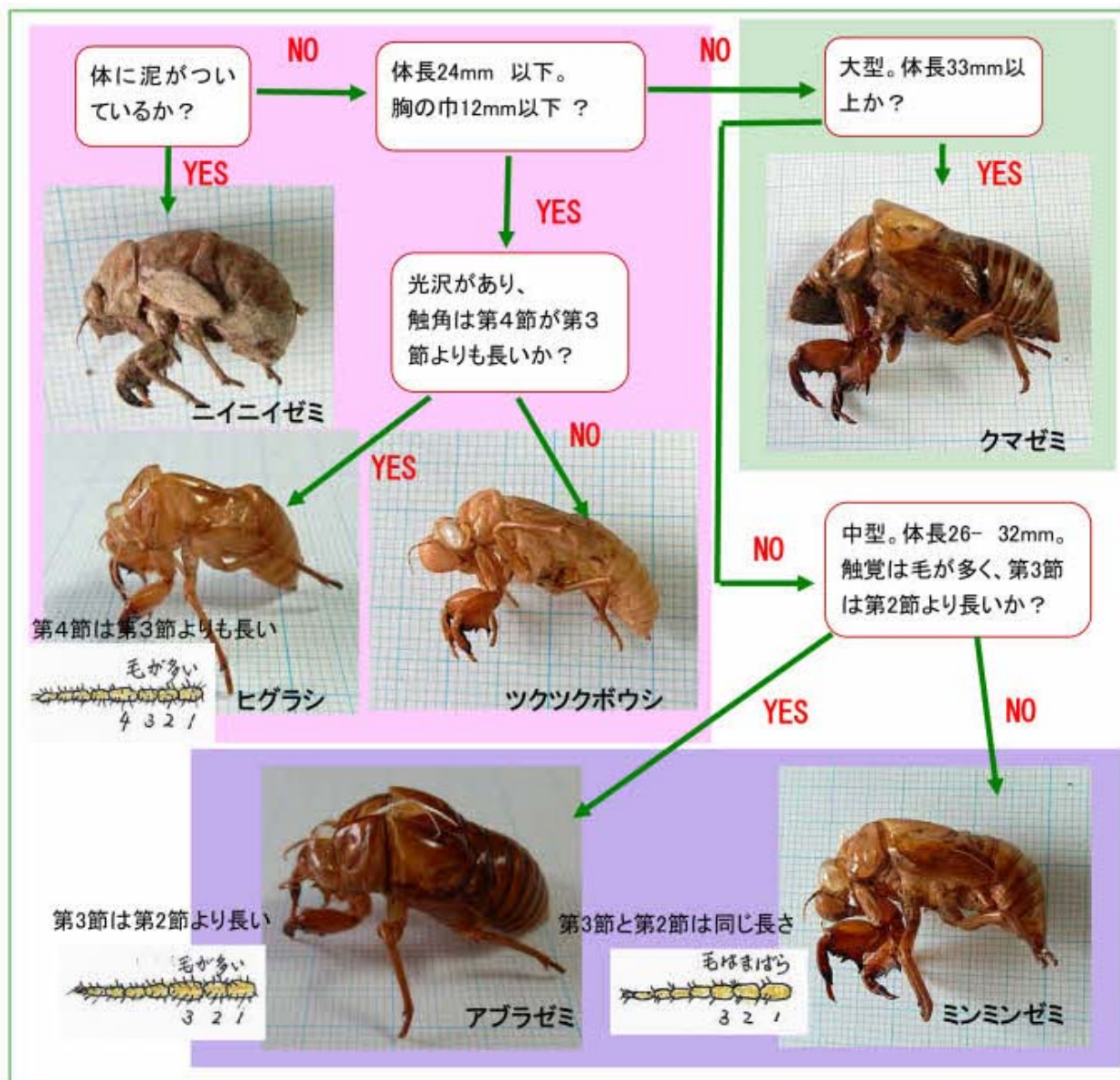
が「ヒガンザクラ（彼岸桜）」と間違いやすいということで、今は「カンヒザクラ」になっています。どこで誰が変えるのかはわかりませんが、上の3つの和名は、変えることができたなら変えたいものです。

セミの抜け殻調査について

セミは夏の風物詩で、鷹取山周辺では7月初旬からニイニゼミが鳴き始め、梅雨が明ける頃にはアブラゼミ、ミンミンゼミが大きな鳴き声で鳴いています。

セミの生活史は夏に受精して雌は枯れ木に卵を産み付けます。卵から孵った幼虫は地中で脱

皮を繰り返し大きくなっていきます。アブラゼミは5年ほど地中で過ごし、最終令の幼虫は、生息場所からあまり移動せずに夏の夜地上に出てきて成虫となり1週間から1か月程交尾の相手を見つけるため雄は大きな鳴き声を出すことになります。セミは樹林性の昆虫であり、セミ





セミの抜け殻調査コース



ニイニゼミの抜け殻

の抜け殻調査は全国的に行われていてその結果は自然環境のバロメーターとなっています。今回は鷹取山周辺でセミの抜け殻調査を行ったので報告します。

1. 調査方法

8月16日に鷹取山の観察路を浜見台～鷹取山公園まで歩きながら木や草に付いている抜け殻を採取して調べました。種の同定は上図（7頁）の方法により確認しました。

2. 調査結果

調査結果は表のとおりで、アブラゼミが一番多く6割、ミンミンゼミが3割、その他1割でした。鷹取山の中ではクマゼミは見つかりませんでした。

種類	個数	割合
ニイニゼミ	4	4.4%
ヒグラシ	1	1.1%
ツクツクボウシ	8	8.9%
ミンミンゼミ	26	28.9%
アブラゼミ	51	59.7%
クマゼミ	0	0%
計	90	100%

3. その他

今回セミの抜け殻調査を行いました。全国的には「セミの抜け殻しらべ市民ネット」や日本自然保護協会などで調査が行われています。市民ネットなどの調査では調査範囲を決

めて毎年3回程度継続的に続けることとなっています。鷹取山でもできれば継続的に調査ができればセミの変化がわかると思っています

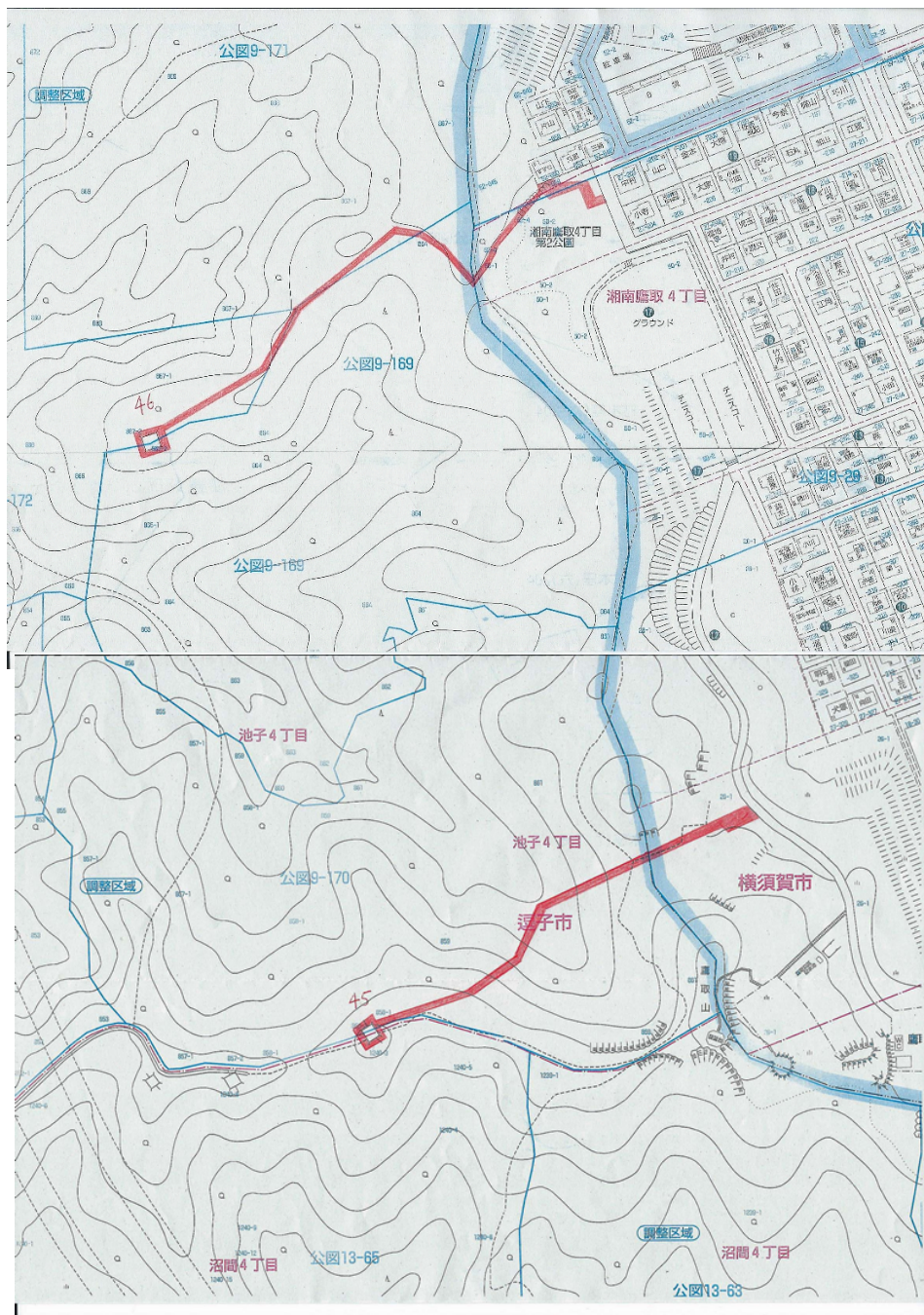
クマゼミは西日本でしか確認できなかったものが、近年この周辺でも普通に鳴き声が聞こえます。セミの鳴き声を聞いてみると私の住んでいる浜見台地区では6種類のセミの鳴き声を聞くことができます。我が家では昼間窓を開けているとテレビのボリュームを2,3程度上げないと聞きづらい時もあります。一方、私の実家の相模原市中央区では7月の下旬でもセミの鳴き声が聞こえない日があり、まさにサイレント・サマーになっていました。

会員の三科さんは自宅周辺でセミの抜け殻を調べてみたらクマゼミが多く見つかったそうです。クマゼミの幼虫は山の中より住宅地の樹木に多く生息しているのかもしれませんが。（本多久男）

鷹取山公園周辺の鉄塔補修工事のお知らせ

東京電力から鉄塔補修工事のお知らせがありましたので報告します。

逗子市沼間6丁目～横浜市金沢区朝比奈にある東電特別高圧送電線「東京南線1.2号線」の40～54鉄塔の補修工事が行われます。工事の実施に当たり地域の生活環境への影響を極力



赤線部分が工事区間。定期観察ルートCの一部が区間にかかります。

抑える旨文書で連絡がありました。要約すると次のとおりです。

工事の概要

- ・鉄塔の経年劣化に伴う部材の取り換え
- ・鉄塔の防錆塗装
- ・工事区間は別図のとおり。

工事期間

- ・平成28年8月下旬～平成29年3月下旬

工事の実施について

・地域の皆様の安全を第一に次の事項を遵守する。

運搬車は2t～4t小型ユニットを使用し、

運搬車が入り出す際は誘導員を配置し、交通整理するとともに道路清掃、環境対策に努める。

- ・作業時間は8:00～17:00
- ・発電機等は低騒音タイプを使用する。

＜鷹取山自然観察会からの申し入れ事項＞

・鉄塔工事区間は一部植物調査等のコースと一致しているが、工事期間中についても工事区間を通行させてもらいたい。このことについて、東電では調査日については工事会社へ周知したので迷惑かけないように対処している。

・工事区間については貴重な植物もあるので、工事に当たって過度な刈込をしないようお願いした。このことについて、東電ではアジサイの植栽を何本か刈取る

ほかは、極力刈込ないように配慮している。

工事に当たって何かあれば、東電に申し入れたいと思います。

チョウ類調査の調査条件 (チョウ類調査)

今年度のチョウ類調査は月2回行ってい

て、毎回、天気・雲量・風・温度など記録をしています。当会の観察は5月から11月上旬までですが、下記のような関連記事がありましたので参考にして下さい。

チョウ類調査では、チョウのあまり飛ばない冬期や雨天時は調査を中止することになっていますが、春先などの寒い日に「今日は調査をすべきなのか」と悩まれる方も多いかと思えます。そんな時は、目安として気温 12℃を調査実施・中止の判断の目安とすると良さそうです。12℃以下の条件では記録できる種数・個体数がとても少なくなる傾向があり、すでに 40 年続くイギリスの調査でもこの基準を採用しています。

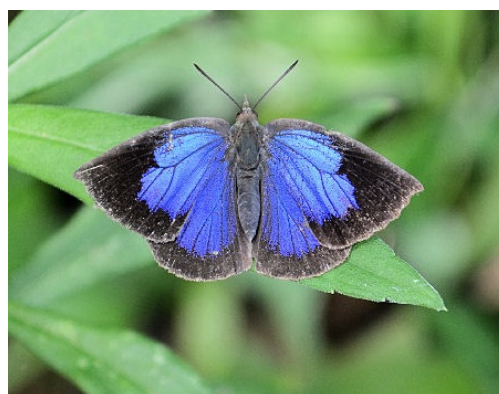
とは言っても、12℃に明確な境界線がある訳ではなく、今のところ事務局では調査員の皆さんからいただいたデータは、各サイトの特徴やその調査の前後の調査結果を見ながら、全国集計に加えるべきかを1件1件吟味して判断しています。なお、冬季や低温の日に取りれた調査データがあつてこそ、こうした判断基準づくりが可能となるので、もし調査をされたときには是非データをご提供ください。<モニタリングサイト1000里地調査ニュースレター No. 15 (2015 Nov.) 日本自然保護協会高川 晋一氏コメントより>

チョウ類調査の今後の予定とその他の定期調査の日程（いずれも金曜日）を表に示しましたので、ぜひ皆さんの予定を調整して調査に参加ください。

なお、植物相調査は第4金曜日で、蝶類調査は第1、第3金曜日、野鳥調査は第1金曜

植物相調査	蝶類調査	野鳥調査
2016年		
9月23日	9月2日	
	9月16日	
10月28日	10月7日	
	10月21日	
11月25日	11月4日	
12月23日		12月2日
2017年		
1月27日		1月6日
2月24日		2月3日
3月24日		3月3日

日です。いずれの場合も、当日雨の時は、翌週日曜日に、更に雨の時は水曜日に延期します。集合は鷹取山山頂東屋で、午前10時から昼頃まで調査します。



鷹取山自然観察会（ホームページを見て下さい）

HP：鷹取山自然観察会（旧 鷹取山の花と樹）

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先：世話人代表：本多久男 e-mail：takatori_0721@nifty.com

tel : 090-4177-0164